

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和7年4月

（1）沖永良部島さとうきび生産量，35年ぶり10万t超え

沖永良部島における今年度のさとうきび圧搾が4月30日に終了しました。生産量は106,827tで昨年に比べ約2万t増収し、平均糖度は14.55度でした。生産量が10万tを超えるのは、平成元年度（114,877t）以来、35年ぶりです。さとうきびの安定生産に向けて、農業普及課は引き続き支援します。

（2）与論島のさとうきび圧搾完了，生産量23,745t

与論島における今年度のさとうきび圧搾が4月6日に終了しました。生産量は23,745tで、2年ぶりに2万t台に回復しました。単収は昨年より高い5.9t/10a、平均糖度は昨年より低い13.44度でした。昨年、11月の集中豪雨により与論島製糖会社の製糖ラインが浸水する被害があり、圧搾開始の遅れが心配されましたが、製糖会社および関係機関の尽力により、復旧が早急に行われ、予定どおりの12月16日に圧搾を開始できました。

（3）「ヨロン島サステナブル畜産認証制度」始まる！

与論町は、持続可能な畜産を推進し、安心・安全な畜産物確保と産業振興を目指す「ヨロン島サステナブル畜産認証制度」を今年4月に制定しました。23日に初の認定審査委員会が与論町役場及び現地農場で行われ、島内の経産牛肥育を行う法人が認定されました。同法人は食品製造副産物を活用した飼料給与、脱炭素及び資源循環等に取り組んでいます。農業普及課も同委員会の一員となっており、今後も支援を継続していきます。

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和7年5月

（1）沖永良部島の製糖終了，35年ぶりの生産量10万t超

沖永良部島における今年度のさとうきび压榨が，4月30日に終了しました。生産量は昨年度を20,245t上回る106,827tで，平均糖度は昨年より2.09度低い14.55度でした。糖度は昨年度を下回ったものの，生産量は例年を大きく上回りました。沖永良部島でさとうきび生産量が10万tを超えるのは，平成元年度以来，35年ぶりとなりました。農業普及課は，収量確保と安定した生産のために，引き続き指導を続けていきます。

（2）グラジオラスの再興を！新規栽培者向け研修会を実施

花き生産者が年々減少している中，知名町では関係機関と連携して，グラジオラス新規栽培者の支援を行っています。5月14日，知名町役場にて新規栽培者向けの研修会を実施し，農家5名，関係機関2名が参加しました。基本的な栽培技術の講義を行ったあと，全員で定植時の球根消毒やほ場での病害事例等について意見交換をしました。今回は座学でしたが，9月に，ほ場で定植方法についての研修を行う予定です。農業普及課はグラジオラス栽培の復活をかけて継続的に支援していきます。



（3）肉用牛の防暑対策を推進

5月2日，沖永良部畜産部会（構成：家畜保健衛生所，農協，町，農業共済組合，農業普及課）は，沖永良部家畜市場の屋根に夏期の防暑対策として消石灰の塗布作業を実施しました。この取組は，子牛セリ市に子牛を出荷する肉用牛農家に消石灰塗布の効果を実感してもらい，各農家での実践を促すことを目的としています。また，当日は牛の熱中症が昨年発生した肉用牛農家1戸でも塗布作業を行い，今後の暑熱対策の効果を実証することとしています。



（4）5月子牛セリ市で与論島が大島地区トップに

5月6日に開催された与論家畜市場の子牛セリ市では，去勢牛および雌牛の平均価格が税抜き約55万円となり，前回と比べて約3万円高く落札されました。この価格は，大島地区内で5月に開催されたセリ市の中で最高価格を記録しました。出品された子牛の発育も良好で，購買者から高い評価を受けました。一方で，肩後部の幅がやや不足している子牛も見受けられたことから，農業普及課としては，子牛のさらなる商品性向上に取り組めます。

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和7年6月

（1）沖永良部地区農業青年クラブ連絡協議会総会を開催

6月26日、知名町フローラル館で、沖永良部地区農業青年クラブ連絡協議会総会が開催されました。総会では、令和6年度活動実績報告、令和7年度活動計画案並びに役員改選について承認されました。令和6年度は、群島交流会や青年農業者会議などの活動報告の他、農産グランプリの優勝報告がありました。また、来賓の指導農業士より励ましのことばを頂き、青年クラブ員もやる気を漲らせました。沖永良部地区農業青年クラブ発展のため、関係機関一同、今後も引き続き支援を続けていきます。



（2）かごしまブランド沖永良部ばれいしょの出荷実績

令和6年産のJAあまみ和泊・知名のばれいしょ出荷実績（6月末現在）は、面積613ha（前年比97%）数量8,675t（前年比95%）金額27億25百万円（前年比150%）でした。天候不良による植え付けの遅れや11月上旬の大雨による被害がありましたが、12月中旬から作物の生育が回復し、その結果、販売金額は初めて20億円を超え、前年よりも大幅に増加しました。今後も安定した生産を続けられるよう関係機関と連携して支援していきます。

（3）かん水を行ってニンニクの収量UP

ニンニク栽培で、かん水チューブ（スマイレイン）を用いたかん水効果の実証を行いました。かん水区は無かん水区と比較して、地上部の生育が良く、鱗茎肥大も良かったため収量が増加し、10a当たりの収量は無かん水区比146%でした。また、実証農家からはスマイレインを用いたかん水は水の粒が細かく、均一に散水できるため、かん水ムラが少なく、短時間でかん水できるとの意見が得られました。今後は生産者に実証結果の周知を図り、水利用の促進につなげていきます。

（4）新規就農者に期待！励ましの会を開催

6月26日、知名町フローラル館で、新規就農者励ましの会を開催し、令和6年度に新規就農した和泊町3名、知名町3名のうち3名が出席のもと、指導農業士、青年クラブ、女性農業経営士を含む52人が参加しました。新規就農者は自己紹介と併せて「規模拡大や新たな品目、販路拡大などにも取り組みたい」など抱負を述べました。両町長の励ましの言葉、支援体制や4H Cの紹介等を行い、関係機関一体となって激励しました。新規就農者が営農定着できるよう引き続き支援していきます。



(5) サシバエ防除で牛のストレス軽減，飼育環境の改善を学ぶ

6月27日，令和7年度徳之島地区牛伝染性リンパ腫研修会（主催：鹿児島中央家畜保健衛生所徳之島支所）が，和泊町えらぶ長浜館で開催され，畜産農家や関係機関・団体等から約40名が参加しました。北海道大学の教授による牛伝染性リンパ腫に関する講演の後，農業普及課が本病を媒介するサシバエの生態や効果的な防除法について説明しました。吸血虫であるサシバエを防除することで牛のストレス軽減による生産性向上につながることから，今後も積極的に情報発信を行っていきます。

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和7年7月

（1）子牛セリ市前生産者研修で儲かる子牛づくりを学ぶ

7月2、3日に沖永良部家畜市場で子牛セリ市生産者研修会を開催。「儲かる子牛づくり講座」として、初日は「分娩2か月前からの飼養管理」、2日目は「分娩時の飼養管理」について講演を行いました。生産者からは、初めて聞く内容もあり大変勉強になったとの感想がありました。参加者は20名と少数でしたが、資料は生産者グループラインで共有しました。なお、7月の沖永良部市場の子牛価格が大島地区トップとなり、喜ばしい結果となりました。



（2）与論町県畜産共進会予選会が開催され大いに盛り上がる

7月15日に与論家畜市場で県畜産共進会予選会が開催され、農業普及課も審査員の一人として審査しました。出品された牛は、発育良好で体積が豊かな牛が揃っており、与論町の和牛改良の高さがうかがえました。また、予選会終了後は、牧草ロール転がしのイベントも行われ、生産者や審査員、町、農協等を含む関係者全員で参加し、大いに盛り上がりました。本日、1席となった牛が、今後大島地区予選会を突破し、県畜産共進会へ出品できるよう支援していきます。



（3）令和6年度沖永良部花き専門農協キク部会反省会が開催される

7月16日、沖永良部花き専門農協にて出荷反省会が開催されました。春の彼岸出し以降、厳しい相場が続いており、国内7市場の担当者を交え「これからの花産地の歩み方」をテーマに意見交換しました。市場側から彼岸出し以降の安値の原因や、厳しい販売環境下でも踏ん張っている産地があることなどが紹介されました。また、「沖永良部の優品はばらつきが多く相対取引には不安がある、この解決が今後必要」との厳しい意見も頂きました。普及課は関係機関と連携し、高品質切り花の産地化を目指します。

（4）低濃度エタノールを用いた土壌還元消毒を実施

7月14日～16日、与論町にて生産者および関係機関の協力のもと、低濃度エタノールを用いた土壌還元消毒が2か所で実施されました。トルコギキョウの栽培では立枯病対策が重要な課題であり、本実証により新たな土壌消毒法の選択肢を増やすことを目的としています。今後は8月下旬と9月下旬に定植し、11月に1番花および1月に2番花における立枯病の発生状況を調査する予定です。農業普及課は関係機関と連携し、立枯病対策の確立を目指します。



(5) 農業経営継承・法人化個別相談会及び経営発展研修会を開催

7月3日～4日にかけて与論町で「農業経営継承・法人化個別相談会及び経営発展研修会」を開催しました。農業経営スペシャリスト（税理士）を迎え、花き農家1戸、畜産農家1戸に対し、法人化に係る個別相談を実施しました。また、研修会として、認定農業者約20名に対し、経営発展に伴う法人化のメリット（信用や人材確保）やそれに伴う税務対策、雇用にかかる社会保険加入義務など留意点の理解を深めることができました。今後も管内農家への経営発展に向けた支援を進めていきます。



現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和7年8月

（1）沖永良部果樹生産組合マンゴー品評会が開催される

7月31日、マンゴー品評会が知名町役場で開催され、組合員、関係機関等約40人が参加しました。玉揃い、外観、糖度、食味の項目で審査を行い、金賞1人を含め4人が入賞しました。今年産は開花期の気温が低く推移し、着果率が低くなりましたが、昨年を上回る14点の高品質マンゴーが出品されました。審査後、農業開発総合センター普及情報課、大島支場より「本年度の春先の気象に応じた温度管理法と今後の着果安定のための整枝」に関する研修も行われ、次年産の安定生産に向けた有意義な会となりました。



（2）新規就農者基礎講座で意欲を新たに

8月26、27日に新規就農者基礎講座を沖永良部事務所で開催し、新規就農者10人が参加しました。指導農業士からは意見交換で「目標を実現するための計画作成、研究・情報収集の重要性」や「さとうきびの雑草除去と収穫後の残渣処理方法」について助言がありました。講座は、農業普及課職員が、農業経営、農作業安全、畑かん水利用、病害虫対策、土壌肥料、GAPについて講義しました。新規就農者は熱心に聞いており、概ね理解したようです。今後も新規就農者の定着へ向けて支援していきます。



（3）新規就農者の経営安定に向けて指導農業士が支援

8月21日、与論町指導農業士5名と関係機関は、新規就農者（生産牛農家3戸、野菜農家2戸）を巡回し、経営の状況確認やアドバイスをを行いました。新規就農者からは、牛舎・堆肥舎の整備や飼料栽培、いんげん・さとも栽培方法や新規品目導入等について相談があり、指導農業士はこれまでの経験を生かした具体的なアドバイスを行いました。今後も適期アドバイスが行えるように指導農業士と連携し、新規就農者の経営安定に向けて支援をしていきます。



(4) 知名町のえだまめ生産振興に向けて

8月18日に関係機関・団体8名でえだまめの振興方針に関する打合せを行い、栽培状況の推移や収益性について説明しました。えだまめの生産振興には単収向上が必要であり、基礎的な栽培管理（かん水、防風、害虫・雑草防除など）の徹底や高単収農家の実態把握が重要であることを共有しました。また、21日に行われた栽培講習会には生産者10名が参加しました。農業普及課から栽培方法の説明を行った他、生産者同士でも栽培技術に関して活発に議論が交わされました。



(5) 沖永良部島で青年農業士講座研修が開催

8月6～7日に、和泊町役場で青年農業士講座制研修（総合講座）が開講されました。沖永良部島で同研修が開催されたのは令和3年度以来、4年ぶりです。同研修では、先輩農業者による講話、プロジェクト活動に関する講義の他、農業をめぐる情勢、営農及び生活設計等に関する経営の講義・演習がありました。研修に参加した農業青年は、プロジェクト活動や専門性の高い経営を学び、農業経営に関し一層意欲を高めていたようでした。農業普及課は、引き続き農業青年に支援を行います。



現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和7年9月

（1）沖永良部島で奄美群島さとうきび生産振興対策協議会が開催

9月9日、沖永良部島で奄美群島さとうきび生産振興対策協議会が開催されました。室内検討では、沖永良部島におけるさとうきび増産計画の目標を達成したことについて、増収要因の検討・情報共有を行った他、各島のさとうきび生育状況について情報共有などを行いました。現地研修では、さとうきび高単収農家のほ場現地視察の他、受託組織の沖永良部農業開発組合の概要や料金について説明会を行いました。今年度もさとうきびが多収となるよう、農業普及課は関係機関と連携し農家支援を行います。



（2）与論町で糖業振興会生産振興大会が6年ぶりに開催

8月26日、与論町で糖業振興会生産振興大会が開催されました。与論町の基幹作物であるさとうきび生産において生産者・関係機関が一同に介し生産意欲の向上に努めることを目的としており、6年ぶりに開催されました。大会では、さとうきび生産者表彰の他、労働力が不足する中、さとうきびで儲けるための研修会などが開かれました。安定したさとうきび生産に向け、農業普及課は引き続き支援を行います。



（3）実行委員会設立による食育・地産地消研修会を開催

J A あまみ和泊・知名女性部、両町生活研究グループ・食生活改善推進員協議会、はるあぐの会、スマイル&フレッシュの代表による実行委員会を設立し、千葉しのぶ氏を講師に食育・地産地消研修会を開催し延べ110人が参加しました。9月5日の実習は沖永良部の伝統野菜「しょう（夕顔）」と「ムジ（田芋の茎）」の郷土料理づくりを行い、6日の講演会は生産現場の現状と朝食の重要性を改めて考える機会となりました。これからも交流を図り、食育・地産地消推進につなげていきます。



（4）外国人を対象とした農作業安全講習を実施

9月17日、和泊町手々知名で農業大学校主催の技能実習生などの外国人を対象とした農作業安全講習会が開催されました。同講習会は、使用する機械・設備の危険箇所や使用資材の有害性を労働者に周知することを目的としました。説明は受講生の母国語に合わせたベトナム語、インドネシア語で記載された資料を用いて行われました。受講者は母国語で記載された資料の使用により、専門用語などの難解な用語についてよく理解ができたようでした。農作業事故防止に向け、農業普及課は安全指導を行っていきます。



（5）9月期子牛セリ市 喜ばしい高値結果

9月期の子牛セリ市が、1日与論市場から始まり、1頭平均579,876円(税抜)と前回7月比47,271円高で取引されました。出荷された子牛は、発育が良く、腹づくりもしっかりしたものが多く、購買者から高い評価を受けていました。2日、3日の沖永良部市場も573,726円(税抜)と前回7月比22,575円高で推移しました。他市場で下落がある中、喜ばしい結果であり、今後も購買者が求める商品性の高い子牛づくりを指導していきます。

(6) 地域計画見直しに向けた話し合い活動を実施

将来の農地利用の姿を明確にするため、和泊町、知名町、与論町の全集落において、関係機関・団体及び農業普及課が参加し、7月から9月に地域計画の見直しに向けた話し合いが実施されました。昨年策定した地域計画や目標地図を確認し、地域農業のあり方について検討しました。今後も毎年継続して話し合いを行い、担い手への農地集積等の計画を実現する支援を行っていきます。

(7) さやいんげんとにがうりの生産者がセグロウリミバエ対策を学ぶ

9月10日、JAあまみ与論セリ市場でさやいんげんとにがうりの栽培研修会を開催し、約70人が参加しました。研修会では今問題となっているセグロウリミバエの対策を重点に防虫ネットや農薬の活用、出荷時や栽培後の残さ処理の対応について説明しました。室内研修後は防虫ネット設置見本を見ながら、防虫ポイントを学びました。参加者からは不妊虫活用の要望や出荷に対する不安の声があがりました。10月からは植付けが始まるので、引き続き関係機関一体となった対策・支援を行っていきます。

(8) 耕畜連携の改善に向けて検討会を開催

9月19日、与論町役場でさとうきび・繁殖牛農家と関係機関12名参加して耕畜連携の改善に向けて検討会を開催しました。今年度の耕畜連携の農家間での連絡体制・飼料の栽培経過等について意見が出され、堆肥活用方法や雑草対策、ハカマロールの活用について協議し、雑草対策では実証ほを設置して解決することとなりました。10月下旬から耕畜連携参加農家募集が始まる計画となり、連携面積拡大に向け引き続き支援していきます。

(9) 知名町花き振興会総会で新規栽培者支援策や安定販売対策を検討

9月11日、JAあまみ知名事業本部にて会員、関係機関、県外7市場の担当者等、総勢50名超が参集し、標記総会が開催されました。花き生産功労者やフラワーコンテスト入賞者への表彰伝達後、議案の審議が行われ、新規栽培者への支援方策、値崩れ防止のための検討会開催の要望等、活発な意見交換が行われました。市場からは3月彼岸以降の安値要因の情報提供と、産地の栽培情報がほしいとの要望が出されました。普及課は強い花き産地作りのため今後も関係機関と連携し支援します。

(10) 花き専門農協の令和6年度総会が開催される

9月24日、和泊町やすらぎ館で沖永良部花き専門農協総会が開催され、約60名が出席しました。令和6年度は夏季の高温や11月の大雨で出荷量が減少し、3月彼岸までは高単価に支えられましたが、その後は単価安となり出荷額は前年比93%にとどまる結果となりました。総会後は九州農政局窪山参事官が講演し、参加者は技術向上や情報発信による消費マインド変革の必要性を共有しました。普及課は今後も「儲かる花き経営体」の増加をめざし、関係機関と連携して支援します。

(11) 令和8年産「咲八姫」栽培に向けて検討会を開催！

9月8日、花き専門農協会議室（web併用）にて令和7年度「咲八姫」栽培検討会を開催し、生産者5名、関係機関9名が参加しました。栽培計画の相互検討を行い、作型毎の出荷予定本数について示し、出荷ピークについては出荷時期の分散や新たな販路開拓について促しました。現時点で沖永良部の令和8年産「咲八姫」の定植球数は約65,000球を見込んでおり、3月中旬～4月下旬に出荷が予定されています。今後は定期巡回指導や目揃い会の開催等を行い支援していきます。

(12) 経営者クラブ島内研修会を実施

9月9日、経営者クラブ（沖永良部・与論支部）の現地研修会を実施し、4名のクラブ員が参加しました。自作機械を活用して省力化を図っている1法人と、夏の栽培品目の中で、高齢者でも栽

培可能な唐辛子を導入して省力化を図っている1法人で現地検討を行いました。参加者は、これからの人手不足の解消に向けたヒントを得たようです。現地検討後の交流会でも活発な意見交換が行われ、これからの沖永良部農業の発展を誓いました。当課では今後も組織活動を積極的に支援していきます。